

製品名: HDAC7 (リン酸化 Ser155) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04767**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	103kDa

抗原情報

遺伝子名	HDAC7
別名	HDAC7; HDAC7A; Histone deacetylase 7; HD7; Histone deacetylase 7A; HD7a
遺伝子 ID	51564.0
SwissProt ID	Q8WUI4
免疫原	抗血清は、ヒト HDAC7A の Ser155 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 121-170

背景

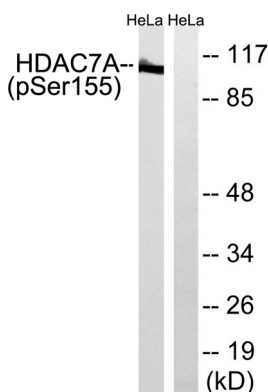
ヒストンは転写制御、細胞周期の進行、そして発生過程において重要な役割を果たします。ヒストンのアセチル化/脱アセチル化は

染色体構造を変化させ、転写因子の DNA へのアクセスに影響を与えます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ヒストン脱アセチル化酵素ファミリーのメンバーと配列相同性を有します。この遺伝子は、転写コリプレッサー SMRT を介した抑制を促進するタンパク質を持つマウス HDAC7 遺伝子と相同性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがみつかっています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ヒストンの N (6) -アセチルリジン残基を加水分解して脱アセチル化ヒストンを生成する。 ,ドメイン: 核外輸送配列は、核と細胞質間のシャトルを媒介する。 ,機能: コアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) の N 末端部分のリジン残基の脱アセチル化を担う。ヒストンの脱アセチル化は、エピジェネティック抑制の標識となり、転写調節、細胞周期の進行、発生イベントにおいて重要な役割を果たしている。ヒストン脱アセチル化酵素は、大きな多タンパク質複合体の形成を介して作用する。MEF2A、MEF2B、MEF2C などの筋細胞エンハンサー因子の転写を抑制することで、筋肉の成熟に関与する。筋分化の過程では、細胞質にシャトルし、筋細胞エンハンサー因子の発現を可能にする (類似性による)。エプスタイン・バーウイルス (EBV) 潜伏期に関与している可能性があり、ウイルスの BZLF1 遺伝子の発現を抑制することが原因と考えられます。 ,その他: その活性は、ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤として知られるトリコスタチン A (TSA) によって阻害されます。 ,PTM: CaMK1 によってリン酸化される可能性があります。 ,配列に関する注意: イントロンの保持。 ,類似性: ヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属します。タイプ 2 サブファミリー。 ,細胞内局在: 核内では、明瞭な核内ドット状構造を形成します。核と細胞質の間を往復します。EDN1 処理により、核から核周縁部への往復が促進されます。細胞質への輸送は 14-3-3 タンパク質 YWHAE との相互作用に依存し、そのリン酸化に起因すると考えられる。 ,サブユニット: HDAC1、HDAC2、HDAC3、HDAC4、HDAC5、NCOR1、NCOR2、SIN3A、SIN3B、RBBP4、RBBP7、MTA1L1、SAP30、MBD3 と相互作用する。14-3-3 タンパク質 YWHAE、MEF2A、MEF2B、MEF2C と相互作用する (類似性による)。HTATIP および EDNRA と相互作用する。KDM5B と相互作用する。 ,

研究分野

タンパク質アセチル化

画像データ



HeLa 細胞ライセートの HDAC7A (リン酸化 Ser155) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。